



み、初見さんに詰め寄ると、ふわっと初見さんが身をかわし、相手の腕を軽くなでたように見えた瞬間、まるで小さな子どもを相手にしているかのように大男が畳の上に転がされ、その外国人もなぜ自分が転がされたのか、まるでわからないといった感じで首をひねって苦笑いしています。

初見さんの年齢は86歳。変幻自在な動きはどう見ても高齢者の動作ではありません。手を握りもせず、相手に触るだけで、相手が立ち上がれない、攻撃する刀や打撃

忍者のイメージを変えた

は当たらない、そして倒される。初見さんは、「パワーや技でない、コントロールだ」と英語で説明を加えると、集まった武芸者はその言葉で何かを了解したかのようになり、一斉に黙々と技の稽古を始めます。

道場での活動に加え、初見さんは、昭和37(1962)年に公開された市川雷蔵主演の映画「忍びの者」で忍術指導を担当しました。今までにない現実的で新しい忍者

海外の忍者熱は想像以上

像に世間は驚かされます。以降も、テレビアニメの実写コーナーへの出演、映画「007は二度死ぬ」での忍術指導など表舞台で忍者ブームをけん引。中でも、特撮テレビ番組「世界忍者戦ジライヤ」では、主人公の父役で出演し評判を得ました。

国内の活動にとどまらず、初見さんは昭和46(1971)年に半棒術のマニュアル本を英語版で刊行し、同50(1975)年には単身ア

メリカに渡り、約2か月間全米各地を巡って忍術を指導しました。

精力的な活動が実り、初見さんの忍術はアメリカでも人気を呼び、その忍者熱はヨーロッパにも広がっていききました。その忍者熱は、日本の忍者ブームを上回ります。

初見さんの忍術は、「生き残ること」を目的にしています。究極のサバイバル技術として世界で認められて、アメリカの警察機関のひとつであるFBI(米連邦捜査局)から招かれ、護身術を指導したこともあるそうです。

平成19年のニューズウィーク日本版の特集で、「世界が尊敬する日本人100人」のうちの1人として、初見さんは、世界各国に弟子を持つ「ニンジャ・マスター」として紹介されるなど、その世界での実績をして、国外でも初見さんは「今忍者」と知られています。

そして、忍術を身に着けることができる道場として、アメリカやスペイン、ドイツ、ブラジルなどの世界各地から修行者が野田の武神館にやってきます。

